

令和元年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト	
市 民	1	基準稼働率の達成	3ホールの稼働率	コンサートホール	86.0%以上	68.9%	C	新型コロナウイルス感染拡大による施設利用中止が相次ぎ、目標を達成できなかった。
	2			劇場	80.0%以上	69.8%	C	
	3			能楽堂	39.0%以上	35.8%	C	
	4	基準利用者数の達成	施設別利用者数 + 視察・見学者等	年間人数	347,000人以上	313,095人	C	新型コロナウイルス感染拡大による施設利用中止が相次ぎ、目標を達成できなかった。
	5	文化事業年間鑑賞者数	自主文化事業の年間入場者・参加者数	年間人数	100,000人以上	112,360人	A	新型コロナウイルス感染拡大前に自主公演を積極的に実施し、目標を1万人以上上回った。
	6	貸館利用者に対するサービスの提供及び意見やニーズを聴取する取り組み	右記の取り組みをしているか	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全に配慮した貸館対応マニュアルの整備 ・舞台装置の操作助言の実施 ・意見箱、アンケート、インタビューを組み合わせた利用者の意見聴取の実施 	3指標すべてにおいて取り組みを行っている。加えて、利用報告書とアンケートを一体化し、利用者の意見を聴取しやすくしている。	A		
	7	貸館利用者（主催者）満足度	貸館利用者の満足度調査	満足度	90%以上	99.0%	A	
	8	文化事業公演鑑賞者の意見やニーズを聴取する仕組の有無	右記を実施しているか	意見箱、アンケート、インタビューを組み合わせた利用者の意見聴取を実施していること	すべての公演でアンケートを実施し、回収結果を整理のうえ事業担当者、管理職が情報共有している。意見箱、インタビューは、No6に合わせて実施している。	B		
	9	文化事業公演等の鑑賞者の満足度	文化事業公演等の鑑賞者の満足度調査	満足度	90%以上	98.6%	A	指標比109%
	10	ワークショップ回数・アウトリーチ回数	ワークショップ・アウトリーチ回数	年 間	100回以上	130回	A	
	11	公演や催し物情報の情報発信	右記の取り組みをしているか	①ホームページ、②メールマガジン、③テレビ・ラジオ、④新聞、⑤雑誌、⑥機関紙 ⑦SNS	①～⑦すべて取組あり。加えて、在来線・メディアシップでのデジタルサイネージによる情報発信。	A	在来線：越後線、白新線、信越線、羽越線、弥彦線、上越線等 ※NoismPR動画放映	
	12	会館会員サービス、チケット販売サービスに関する取り組み	右記の取り組みをしているか	①会員先行予約・優先予約制度、②チケット購入者への駐車場割引、③チケット割引制度、④セット券の販売、⑤カード決済 ⑥会員への機関紙の送付、⑦チケットのネット販売	①～⑥すべて取組あり。加えて、会員限定イベントへの招待等、会員サービスに取り組んだ。	A	・東響定期会員招待コンサート3回実施 ・東響定期公開リハーサル、3月29日予定だったが、コロナ感染拡大により中止	
	13	会館会員数の確保	年度末時点での会員数	会員数	5,400人以上	4,488人	C	新たな会員制度を導入したが目標に届いていないため、更なる改善に取り組む
	14	ホスピタリティに関する取り組み	右記の取り組みをしているか	<ul style="list-style-type: none"> ・レセプションистの配置 ・市民に届く広報の実施 ・苦情、要望に対する対応として回答が必要な場合、2週間以内に連絡を入れているか（回答が遅れる旨の連絡でも可） 	3指標すべてにおいて取り組みを行っている（広報は市民No11のとおり）。加えて、混雑時の窓口対応職員増員や、専門研修受講などに取り組んだ。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育訓練されたレセプションистの配置 ・市民No11のとよりの広報実施 ・苦情、要望への2週間以内の連絡 	
	15	東京オリンピックパラリンピック競技大会文化プログラムへの取り組み	文化プログラム認証件数	年 間	30件以上	53件	A	
	16	社会包摂、コミュニティの創造と再生	教育・医療・福祉等 異分野との連携機会	年 間	4件以上	4件	B	【教育】音楽&能楽アウトリーチ 【福祉】視覚障がい者ダンスWS 【報道】日報カルチャースクール
	17	子どもが文化芸術に触れる機会の提供	右記を実施しているか	子ども向け文化事業の実施	ジュニア音楽事業、能楽アウトリーチ、ダンスWS等盛んに実施	A	指標該当WS等実施実績：62回	

令和元年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
財 務	1	文化事業 自主財源比率	(事業収入+文化庁補助金等) / 事業費	自主財源比率 67%以上	71.2%	A	指標比106%
	2	文化事業収入拡大及び外部資金の獲得	右記の取り組みをしているか	<ul style="list-style-type: none"> 文化事業収入拡大のための営業活動 外部資金獲得の情報収集 外部資金獲得の関係づくり 	3指標すべてにおいて取り組みを行っている 加えて、資金獲得の専門資格である認定&准認定ファンドレイザー有資格者(職員)を配置し資金獲得に努めた	A	認定ファンドレイザー：1人 准認定 // : 2人
	3	施設使用料収入の増加	施設使用料収入	年 間 71,000千円以上	64,651,839円	C	新型コロナウイルス感染拡大による施設利用中止が相次ぎ、目標を達成できなかった。
	4	施設利用者一人当たりの運営経費	指定管理料決算額(※) ÷ 年間利用者数 (※) 人件費及び維持補修費を除く	年 額 939円以下	1,006円	C	新型コロナウイルス感染拡大により年間利用者数が減り、目標を達成できなかった。
	5	市民の文化的環境の充実に対する第三者からの高い評価	右記のとおり	国等からの財政的支援の獲得	文化庁(芸文振)劇場・音楽堂等総合支援事業(全国トップ16館)に選定され高額の財政支援を獲得	A	H31年度に実施された中間評価でも高い評価を受けた。
業 務	1	長期的な管理施設の保全及び、安全確保体制の確立	右記の取り組みをしているか	<ul style="list-style-type: none"> 市公共建築物保全計画(H30年4月改定)に基づく市の保全計画づくりへの協力 消防訓練、防災訓練、AED訓練の実施 緊急時の連絡体制、マニュアル整備 	3指標のうち「市の保全計画づくりは」市から協力を求められておらず未実施だが、残りの2指標に加えて、職員を自営消防講習等に参加させ、レベルの高い安全確保体制としている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 9/2、2/19 消防防災訓練実施 10/17 AED訓練実施 緊急連絡網(ケースに応じて2種)、危機管理マニュアルの整備
	2	日常連絡の適切さ	月次報告書の提出	提出期限 翌月10日	毎月10日までに提出	B	
	3	事業計画・事業報告の適切さ	事業報告書の提出	提出期限 翌年度4月30日	4月30日までに提出	B	
	4	運営方針・事業目標	右記の取り組みをしているか	<ul style="list-style-type: none"> 設置目的、基本的使命を踏まえた運営方針がある 運営方針をホームページ等で市民に公開している 運営方針に基づく事業目標に関する自己評価を行っている。 	3指標すべてにおいて取り組みを行っている。 なお、運営方針は文化庁(芸文振)から高い評価を受け、劇場・音楽堂等総合支援事業(全国トップ16館)に選定されている。	A	「新潟市民芸術文化会館、新潟市音楽文化会館指定管理者業務計画書」をHPで公開
	5	運営方針を実現するための経営戦略の有無	右記の取り組みをしているか	<ul style="list-style-type: none"> 内部で定期的に各事業を検証する会議を実施している 所有者である市と各事業の検証結果について会議を行っている 内部及び市との会議を受けて業務改善、経営の効率化に取り組んでいる 	3指標すべてにおいて取り組みを行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 各制作部門別会議(月1回程度) 市との随時ミーティング(各制作部門それぞれで随時)
	6	関係法令の順守	右記の取り組みをしているか	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護研修の実施 コンプライアンス研修の実施 守秘義務違反なし 	3指標すべてにおいて取り組みを行っている。	B	3/30・31:コンプライアンス研修実施(個人情報保護研修内包)
	7	他の公立館との共同・連携企画の実施	年間の企画数	年 間 10企画以上	17企画	A	
	8	協働の推進による「公益の増進」「行政の代行的・補完的機能の増進」の実現	右記の取り組みをしているか	<ul style="list-style-type: none"> 行政にない専門性を活かした管理運営 幅広い分野との連携、コーディネーター人材の確保 地域の文化人材との連携 	3指標すべてにおいて取り組みを行っている。	B	H31年度取組 <ul style="list-style-type: none"> 業務内容に応じた専門職員の配置 芸術監督、専門職員の配置 演劇企画プロデューサーの設置 市民の中からアウトリーチアーティストを選抜し活躍の機会を提供

令和元年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
人 材	1	専門性の高い人材の活用	右記の取り組みをしているか	<ul style="list-style-type: none"> ・オルガニストの配置 ・文化関係法規に精通した弁護士との顧問契約 ・専門的知識、技能、経験、資格等を備えた職員の活用 	3指標すべてにおいて取り組みを行っている。 加えて、職員を評価手法、経営分析等の研修に参加させ得た知見を翌年度の評価指標の見直しに反映させている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・専属オルガニスト 山本真希 ・顧問弁護士（文化芸術専門） ・文化事業制作・舞台技術・経理・組織運営、票券・OA等の知識経験、資格を持つ職員を配置 ・社会的インパクトマネジメント研修、政策研究大学院大学主催研修の受講
	2	職員の育成	右記の取り組みをしているか	<ul style="list-style-type: none"> ・内部、外部研修の受講 ・スキルアップにつながる自主企画事業の実施 ・研修成果の館内へのフィードバック 	3指標すべてにおいて取り組みを行っている 加えて、館運営のバージョンアップを見据えた職員同士の勉強会を定期的実施している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・劇音協等主催研修の受講 ・東京芸術劇場と連携、共同制作ツアー公演を実施した演劇事業「エブリ・プリリアント・シング」の実施 ・受講内容の報告・情報共有・課題検討のためのツール作成（見える化）
	3	労働基準の充足	右記のとおり	労働基準違反に該当する問題がないこと	36協定違反があった。 （時間外&休日労働の協定上限超過）	C	R2年度36協定締結に向けて内容の見直しを行い、遵守できるよう改善を図った。 また、引き続き時間外&休日労働の縮減に努める。

【評価基準（市提示）】

- A：要求水準（評価指標）を達成し、かつその達成度・内容が優れている（複数の指標の場合、全てを達成し、かつその達成度・内容が優れている）
- B：要求水準（評価指標）が達成されている（複数の指標の場合、全てが達成されている）
- C 要求水準（評価指標）が達成されていない（複数の指標の場合、全ては達成されていない）

【指定管理者による自己評価時の基準】 ※ 市提示の評価基準を補足・明確化するもの

数値指標の場合

- A：指標＋5%超
- B：指標±5%以内
- C：指標－5%超
- D：市と基準を合わせるためカット

数値指標でない場合

- A：複数指標全て達成＋αの取り組み有り
- D：同左

令和元年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（指定管理者独自の項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト	
新 潟 市 の 地 域 活 性 化	1	パートナーショップ	右記のとおり	加盟店数	40店	50店	A	
	2	新潟のプレゼンス向上	全国&海外公演の実施	年 間	全国：10回 海外：2回	全国：62回（公演） 海外：3回（公演）	A	12番目の天使：20公演、イン・ザ・プール：10公演、エブリ：19公演、Noism：13公演（うち海外3公演）
	3	地域で文化を支え継承	地域の文化関係者との共同事業	年 間	15件	10件	C	共催事業数
	4	アウトリーチ手法の普及、アマチュア演奏家の育成	アウトリーチ研修会開催 アウトリーチ等への出演	年 間	研修会：1回 出 演：6公演	研修会：1回 出 演：13公演	A	
	5	地域の文化活動の活性化	ジュニア音楽・演劇事業のOB・OGの文化活動率アンケート調査の実施	実施の有無	実 施：A評価 未実施：C評価	未実施	C	
	6	舞台芸術が、より身近になる	ヴァリエーションに富んだ事業展開 全国（世界）的連携公演	月平均 年 間	各ホール2件 （能楽堂1） 10件	月平均 コンサートホール：3.8件 劇場：2.7件 年間 能楽堂：1.7件 14件	A	12番目の天使（8都市20公演）、エブリ・プリリアントシング（5都市19公演）ほか
	7	鑑賞者の交流拡大	出演者を交えた交流機会の提供	年 間	4回	13回	A	演劇事業アフタートーク：2回、東響公開リハ等：3回、Noimmアフタートーク等：8回
効 率 的 な 会 館 運 営	1	バックステージツアー	右記のとおり	年 間	6回	4回	C	5・6回目の3月開催を告知するも、コロナウィルス感染拡大に伴い中止
	2	清掃・館内美化への対応度	観客や住民が、安全に安心して利用できる施設環境と運営体制を整えているか		・施設の特性に応じた清掃基準 ・実施状況の定期的な点検 ・館内の掲示物、備品を含めた総合的なアメニティの向上	3指標すべてにおいて取り組みを行っている。	B	
	3	施設・設備の保守点検度	保守点検の実施		法定&任意：A評価 法定のみ：B評価 法定未実施：C評価	法定&任意 実施	A	
	4	専門人材（職員）の確保	ファンドレイザー資格取得 長期研修派遣	准認定1人 認定1人 年 間1人	A評価：すべて達成 B評価：いずれか達成 C評価：いずれもなし	准認定2名、認定1名 長期研修派遣なし	C	
	5	財源の多様化	ファンドレイジングの実施 マッチンググラント制度の検討	年 間 1千万円（H34年度迄に達成） 研究・体系化後、市へ働きかけ		市と協議のうえ、ホールスポンサー制度・新寄付制度「劇術のミライブプロジェクト」開始	B	

【評価基準】 & 【指定管理者による自己評価時の基準（市提示の評価基準を補足・明確化するもの）】

→ 市「公の施設目標管理型評価書」と同項目 と同様とする

総 合 評 価 （ 所 見 ）

- ・3月以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて「施設稼働率」「施設利用者数」「施設使用料収入」等は、目標を達成することができなかった。
- ・自主文化事業事業の「年間入場者・参加者数」「ワークショップ・アウトリーチ回数」「自主財源比率」等は、新型コロナウイルス感染拡大前に積極的な事業展開を実施していたため、高いレベルで目標を達成することができた。
- ・「貸館利用者（主催者）の満足度」「自主文化事業公演等の鑑賞者の満足度」は、いずれも高いレベルで目標を達成することができた。
- ・R2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響がより顕著にあらわれ、目標達成の高いハードルとなることが予想されるが、全館体制で目標値に近づけるよう取り組む。